

119. 訪問看護との連携・協働による地域包括ケアシステムにおける安心・安全な歯科訪問診療教育システムの開発

福岡歯科大学 口腔歯学部成長発達歯学講座障害者歯科学分野 教授 森田 浩光

概要

2025 年の地域包括ケアシステムの完成に向けて、訪問診療を通じて医療・介護の場で活躍できる歯科医師の育成が急務となっている。本研究では、歯科訪問診療における全身のアセスメントから、急変を起こさないための患者の全身管理上の Tips、診療中急変時の対応及び救急搬送に至る判断及び搬送手順、医科・訪問看護との連携方法についての内容を含む歯科訪問診療マニュアルの作成、また、看護師との連携診療を見越した実践教育の場（VR や患者ロボットを用いた擬似体験実習、訪問看護師同行による歯科訪問診療研修）の提供により、訪問看護との連携により安心・安全な歯科訪問診療が行える教育システムを開発する。

背景および目的

実際の歯科訪問診療現場では、稀に遭遇する患者の急変に対し、知識だけでは補えない初期対応や救急搬送の判断などの問題があるため、安心・安全な歯科訪問診療の実践には、医科（医師・看護師）と協同したより実践的なマニュアルの作成や訪問看護師との連携・協働による実践教育の場の提供が必要と考えられた。以上の背景・必要性から、本研究では、診療前の口腔及び摂食嚥下機能を含めた全身のアセスメントから、急変を起こさないための患者の全身管理上の Tips、診療中急変時の対応及び救急搬送に至る判断及び搬送手順、日常の医科との連携方法についての内容を含む実践的な歯科訪問診療マニュアルの作成・配布、さらに歯科単独での安全な歯科訪問診療はもちろんのこと、将来的な医師・看護師との連携診療を見越した実践教育の場（ビデオ素材作成による VR 機器を用いた仮想急変時対応実習、患者ロボットを用いた歯科訪問診療時の患者急変時対応の体験実習、訪問看護師同行による歯科訪問診療研修）の提供により、安心・安全な歯科訪問診療が行える教育システムを開発することを目的とした。

これまでの成果

協同研究者を中心として、実践的な歯科訪問診療マニュアル（多職種による訪問診療での全身管理・口腔健康管理マニュアル：全 201 ページ）を作成した。本マニュアルには、歯科医師と訪問看護師の連携シートも収載した。

多職種による

訪問診療での全身管理・口腔健康管理 マニュアル



＜監修＞

森田 浩光 福岡歯科大学 成長発達歯学講座 障害者歯科学分野・教授

得能 智武 福岡看護大学基礎・基礎看護部門・教授

梶木 晶子 福岡看護大学・学長

図 1. 実践的な歯科訪問診療マニュアル

実践的な歯科訪問診療マニュアルとして「多職種による訪問診療での全身管理・口腔健康管理マニュアル」を作成した。

■急変時の初期対応

・報告

様子や状態を観察し、「いつもと何がどのように違うのか」、客観的観察データを明確に、主治医や救急隊員に報告する。

・家族への配慮

急変した状態を見て、家族（キーパーソン）が動揺することもあり、家族の様子を観察し、家族が冷静に判断できるように配慮する。

・情報共有

搬送先の医師が迅速な対応・治療を開始できるよう、訪問看護師と情報共有し、その上で、主治医は、搬送先へ情報提供を行う。

顔

- ・顔半分が動きにくいあるいはしびれる
- ・にっこり笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ・ろれつがまわりにくい、うまく話せない
- ・視野がかける
- ・ものが二重に見える
- ・顔色が明らかに悪い



頭痛 (p167)
麻痺がある (p175)

意識 (p156)
(失神 (p170))
・呼びかけに反応しない
・痛み刺激に対しても目を覚まさない

・手足がしびれる



呼吸 (p160)
・呼吸していない
・息苦しさを訴える

循環 (p163)
・胸痛を訴える

全身 (p167,177)
・冷や汗
・手足が冷たい
・発熱
・けいれん

図 2. 実践的な歯科訪問診療マニュアルの一部：急変時の初期対応

「多職種による訪問診療での全身管理・口腔健康管理マニュアル」収載の「急変時の初期対応」

訪問看護師と歯科訪問診療の歯科医師が、在宅療養者の情報を共有するための情報共有シート

訪問看護師 記載欄				
歯科訪問診療依頼の情報共有	ふりがな	性別	生年月日	年齢
	氏名			
	既往歴・現病歴			
	疾患名	治療他	病院名（担当医）	留意点 備考
	要介護認定：なし・申請中・あり（要支援１・２ 要介護１・２・３・４・５）			
	バイタル（日頃）	身長	体重	（ / ） BMI
	体温	体重変化：なし・あり（ kg/ 月・年 増・減）		
脈拍	食事（経口・経管栄養：経鼻・胃瘻・腸瘻）			
血圧	嚥下状態：嚥下機能障害なし・あり（食事形態			
SP02	朝食	終了時間	血液データ（ / ）	
	昼食	終了時間		
	夕食	終了時間		
利用者（患者）および家族への指導内容・留意点				

訪問看護師 記載欄			
情報共有	月日	内容	記載者

20

図 3. 歯科医師と訪問看護師の連携シート 1

歯科医師と訪問看護師が連携するための情報共有シート（見開き左側）

歯科医師 記載欄		
月/日	治療予定（治療内容）	患者・家族への指導内容と留意点

本シート (Excel ファイル) のダウンロードはこちらから



製本したマニュアルは、福岡歯科大学口腔歯学部4～6年生、福岡看護大学3・4年生、福岡医療短期大学歯科衛生学科3年生にそれぞれ配布し、福岡歯科大学の5年生および歯科訪問診療関係者には福岡看護大学の訪問看護の経験のある教職員の協力のもとで、マニュアルをもとに患者急変時のロボット実習を実施した。



図5. ロボット実習風景

実践的な歯科訪問診療マニュアルをもとに、医師の指導のもとで急変時を想定したロボット実習を実施した。

VR教材については、ロボット実習の内容をもとにシナリオを作成し、今後、撮影・編集後に、口腔歯学部学生や臨床研修歯科医に仮想急変時対応実習を実施する予定である。また、訪問看護師同行による歯科訪問診療研修については、COVID-19やインフルエンザの蔓延により、居宅歯科訪問診療への人数制限を行っているため実施できていない。

今後の展望および課題

今後は本助成金により作成・製本した実践的な歯科訪問診療マニュアル（多職種による訪問診療での全身管理・口腔健康管理マニュアル）を研修歯科医をはじめ若手歯科医師、歯科衛生士に配布し、実際の歯科訪問診療時に役立ててもらうとともに、VR教材が完成次第、より多くの歯科医療関係者に急変時の対応を体験してもらう。訪問看護師同行による歯科訪問診療研修についても感染症が収束次第、開始する予定である。なお、以前に実施した歯科医師と訪問看護師の双方の訪問診療連携についての意識調査のための、福岡市歯科医師会と福岡県訪問看護ステーション連絡協議会へのアンケート調査については、現在、論文作成中である。さらに今後、本研究成果をもとに、重篤な全身疾患や障害を有する患者への在宅歯科訪問診療時の訪問看護師の同行・同時介入について、次の診療報酬改定の際の保険収載を目指して医療技術評価提案書を作成・提出予定である。このよう

に本研究の成果を安心・安全な歯科訪問診療の実践に役立てていけるよう、今後も活動を継続していく予定である。

(完)

発表論文

- 1) 森田浩光. 本学における地域包括ケアシステムを見据えた学生・研修医教育. 日本歯科医学教育学会雑誌 38:34-35, 2022.
- 2) 森田浩光. 歯科訪問診療の現状と障害児・者への対応. 障害者歯科 45:69-76, 2024.
- 3) 森田浩光, 王丸寛美, 佐藤路子, 寶田 貫, 今井裕子, 田崎園子, 天野郁子, 米田雅裕, 坂上竜資, 池邊哲郎, 前田英史, 西村英紀, 樋口勝規, 和田尚久. 地域包括ケアシステム・医科歯科連携への理解を目的とした大学間連携歯科医師臨床研修カリキュラムの試み. 日本歯科医学教育学会雑誌 40:125-134, 2024.